

演題

「伝統と革新の融合を目指して」

氏名 松木 良介

抄録

北九州歯学研究会は歴史のあるスタディーグループであり会員の年齢構成は幅広く、毎月の例会を通して日々研鑽を積んでいる。当会が特に大事にしていることは、基礎資料の採取を確実に行うこと、基本的な治療を大事にすること、長期に経過を観察することである。一方で歯科医療の発展は日進月歩であり、常に新しい技術や知識が登場している。時代の変化に適応すべく、諸先輩方が築き上げてきた伝統を大切にしながら新しい治療法や器材についても挑戦し、検証を重ねている。

しかし歯科治療には様々な分野があり、一人で全分野の最先端技術を検証するのは困難である。当会の特徴は会員それぞれが得意分野を持ち、相互に取り組みを提示し合い、ディスカッションできることである。そして基本的な治療と先端技術の融合が、新たな価値の創造に繋がるものと考えている。

そこで今回、伝統と革新の融合を目指した当院の取り組みを、歯内療法を中心に提示していきたい。

略歴

- 2002年 九州大学歯学部卒業
九州大学病院第二口腔外科入局
- 2004年 同大学院進学
- 2008年 学位取得(歯学)
やまだホワイトクリニック歯科（福岡市）勤務
- 2010年 医院継承し、まつき歯科医院開業
- 2015年 日本審美歯科協会入会
現在に至る

所属学会／所属スタディーグループ

日本顎咬合学会
日本歯内療法学会
日本歯科保存学会
北九州歯学研究会
上田塾 他

演題

歯牙の圧下を目的とした補綴前処置に TAD を使用した症例について

氏名 白土 徹

抄録

日々の歯科臨床の中で、最終的な補綴装置の設計をする際に、歯列から逸脱した歯牙のポジションをどのようにマネジメントするか頭を悩ませるケースに遭遇する。私は、長期的な予後を良好に維持するためには、可能な限り歯列と咬合を安定させておくことが大切であると考えている。近年、TAD (Temporary Anchorage Device) の登場により、全顎的な矯正治療はもちろん部分的な矯正治療 (特にアプライトや圧下) を行う際に、従来の手技と比較してよりシンプルな装置で施術を行えるようになった。今や TAD 無しに効率的で効果的な歯牙移動は不可能ではないかと感じている。

今回は、①下顎臼歯部へのインプラント治療を行う際に、対合歯である上顎臼歯部の挺出を改善したケースと②全顎的な総合治療において、臼歯部の過度な挺出と前歯部の突出を伴い咬合平面の大きな乱れを改善したケースの 2 症例を提示し、参加者の皆様とディスカッションできれば幸いである。

略歴

平成 8 年 (1996 年)	九州歯科大学卒業
平成 8 年	九州大学大学院歯学研究科入学
平成 13 年 (2001 年)	九州大学附属病院第二口腔外科 勤務
同年	学位取得 (歯学博士)
平成 14 年 (2002 年)	屋久島徳洲会病院歯科口腔外科 勤務
平成 16 年 (2004 年)	白土歯科医院 勤務
平成 23 年 (2011 年)	白土歯科医院 継承 現在に至る

所属

日本顎咬合学会 (認定医)
日本口腔インプラント学会
北九州歯学研究会
日本審美歯科協会
Osseointegration study club of Japan (OJ) 正会員・常任理事
上田塾
JACD
PABC
経基臨塾

演題

Co2 レーザーを使用した新しい結合組織採取法

氏名 三條 直哉

演題

近年、結合組織移植術は、国民の意識の向上、成人矯正の一般化などにより根面被覆や歯槽提増大の需要が増加し、国内においても多くの講習会が開催され、習得するための機会が整いつつあるように思われる。

我々surgical basic course (SBC) では 2009 年から歯周形成外科の基本を、延べ 631 人の受講生に伝えている。

その中で、受講生が結合組織移植に挑戦する際の技術的ハードルとして、「移植片採取の困難さ」が非常に多い様を感じる。

結合組織移植術における移植片の採取方法は 1974 年に Edel らが trap door Technique を報告したことにはじまり、L-shape incision, single incision, Tuberosity graft など様々報告されている。採取プロトコルの発展に伴い、より低侵襲な切開デザインとなってきた傾向がある。しかし、これらの方法は盲目的にアプローチする範囲が増加し、移植片の採取量は術者の経験や技量に大きく依存するものになっている。2010 年に zucchelli らによつては発表された Extra oral de-epithelized graft は、簡便に良質な結合組織を採取できる方法であるが、上皮の取り残しなどの問題となった。

この度は、より簡便かつ安全、確実な新しい結合組織採取法について提案したい。

略歴

2004 年 日本大学松戸歯学部 卒業

2005 年 (医)歯幸会 吉野歯科医院 勤務

2009 年 Surgical basic course アシスタントインストラクター

2010 年 三條歯科医院 開設

2023 年 Surgical basic course 代表就任

現在に至る

所属

Surgical basic course

日本歯周病学会

日本臨床歯周病学会

情熱会

川口ペリオインプラント研究会

演題

Longevity を求めて ～JIADS で学んだこと～

氏名 渥美 克幸

抄録

アメリカの歯周病専門医である Dr.Nevins の下で、科学的な背景をもった歯周病学ならびに歯周治療と密に関連した補綴治療の実際を学び直した小野善弘と、大阪大学で咬合に関する仕事をしつつ臨床結果にこだわりを持ち続けていた中村公雄の出会い
は、互いに知的な刺激と臨床家としての熱意を交換しあうものであり、またそれぞれの専門性を活かしたグループプラクティスを可能にするものでした。

二人は 1984 年に大阪で O-N Dental Clinic (現・医療法人貴和会歯科診療所) を共同開業し、科学的な根拠を持った予知性の高い診療を行う試みをスタートさせました。また、彼らが日々確信を深めつつある臨床の考え方とテクニックを広めるため、1988 年に JIADS を発足させたのです。

以上、JIADS ホームページから改変引用・・・

私が初めて JIADS のペリオコースを受講したのは、歯科医師歴 2 年目の 2003 年なので、既に 20 年以上前のことになる。若いうちから歯周治療をベースとした包括的な歯科治療の知識と技術、そして哲学を学ぶことができたこと、さらに多くの素晴らしい出会いに恵まれたことは、私の人生の大きな宝となっている。

本講演では、当院における臨床例の供覧とともに、私が JIADS で学んだことについてお話をさせていただく。JIADS の活動に興味をもつきっかけになれば幸いである。

経歴

2002 年 長崎大学歯学部 卒業

2002 年 医療法人社団 歯友会 赤羽歯科 勤務

2010 年 デンタルクリニック K (埼玉県川口市) 開設
現在に至る

所属

日本審美歯科協会 会員

長崎大学歯学部 非常勤講師

日本接着歯学会 専門医・指導医

日本顕微鏡歯科学会 認定医・認定指導医

Osseointegration Study Club of Japan 正会員

JIADS 常任講師

デンタルアーツアカデミー 講師

ZEISS Certified Speaker (Regional/APAC)

演題

「Life stage を考慮した矯正治療」

氏名 山尾 康暢

抄録

矯正治療は Life stage(乳歯列、混合歯列、永久歯列)に応じて異なるアプローチが求められる。小児期は顎骨成長が活発な時期で、この成長を利用した矯正治療を行う。この時期には、歯列や咬合の問題を早期に発見し、マウピース矯正や LOT によって問題を改善していく。小児期における歯列不正の改善は、顎骨の健全な発育を助長し、審美的な改善は子供の精神面においても自信を高める効果も期待できる。また将来的にⅡ期治療が必要な場合においてはⅠ期治療を行なったことでより良い結果へと繋げることができる。永久歯列においては歯列不正による審美的な問題や顎位の偏位などを改善するためには全顎矯正を行うことが多く、歯列全体を対象にするため、より広範囲での機能改善が期待できる。その結果、口腔内の健康が向上し、歯列や顎骨にかかる負担を軽減することができる。また、審美的な改善により外見に対する自信や心理的な満足感も得られる。

Life stage に応じた矯正治療は、機能、審美、健康増進を包括的に考慮することで、患者の QOL を向上させることができる。各段階に最適な治療法を選択することが、より良い結果を生む鍵となる。そこで、今回はそれぞれの stage における最適な治療法について、少しでもお役に立つ事ができるようにお話しさせていただく。

略歴

2006 年 九州大学 卒業

2008 年 徳永歯科クリニック勤務

2022 年 山尾おとなこども歯科開業

所属

日本審美歯科協会

日本臨床歯周病学会

日本口腔インプラント学会

日本顎咬合学会

福岡豊歯会

スタディーグループ R

演題

歯を残すための総合歯科臨床 ～スタディーグループから学んだ事～

氏名 鈴木 泰二

抄録

歯科医師になって20年、77歳を迎え歯科医業を引退した父から初めの10年は師匠を見つけてがむしゃらに勉強しなさい、10年目からは考えながらどんどん実践しなさい、20年目からは自分が行った臨床を評価しながら技術の向上に努めなさいと教わった。

JUC にオブザーバーとして入会したのは8年程前で、きっかけは水上哲也先生に出会った事です。水上先生の臨床を見て感銘を受けたことを今でもよく覚えています。

そして JUC 会員の先生方の1本の歯の治療の精度に惹かれ正会員として入会し、自分も患者の歯を1本でも多く残したいと考えるようになった。

昨今、インプラント治療の進歩は目をみはるものがあり、数多くのインプラントが埋入されている。

インプラントにてバーティカルストップが確立され、多くの歯が保存でき、患者の健康に寄与しているのも事実だが、その逆に安易に抜歯され、インプラントが埋入されているのも事実であり私は一つ一つの歯を助けるべく最大限の努力を積み上げることが本当の意味での患者との信頼関係を築く近道であると思っている。

L.D.Pankey の言葉に For the patient という言葉があり「歯科の専門的知識を持つ貴方ならどうしてももらいたいのか、それがすなわち貴方の Treatment plan である」というのである。

医療保険があって医療があるのではなく、医療があって医療保険の適応があると考えべきで、歯を保存することに真正面から取り組んでいき、1本の歯の治療精度の高さから全顎的治療の成功へつなぐと考えている。

今回はまだ未熟ではありますが、私が行った20年臨床を評価しながら、歯を残すための当院での取り組みを供覧しご指導いただけたら幸いである。

略歴

明海大学歯学部卒業

日本大学歯学部附属歯科病院 勤務

医療法人社団二の宮会 鈴木歯科医院 勤務 継承

Natural Dental Office 開設

所属

日本口腔インプラント学会 専門医

日本歯周病学会 認定医

日本顎咬合学会 認定医

日本顎頭蓋機能学会 (ICCMO) 認定医

日本臨床歯周病学会 会員

JUC 正会員

OJ 正会員

演題

For the better dental practice.

氏名 Na, Dong-Kyu 羅東圭

抄録

A brief summary of the dental practice is the diagnosis and treatment of pathological changes in the Oral and maxillofacial system, including the dental and periodontal tissues. And the treatment of the Oral and maxillofacial system begins with the improvement of one tooth and periodontal tissue according to the basic principles.

And we can make sure that the diagnosis, treatment, and maintenance are done properly through follow-up observation, which completes the treatment. Therefore, it is very important to meticulously keep clinical photographs, radiographs, and diagnostic records prior to treatment. These data are the absolute criteria for re-evaluation during follow-up. Finding and reflecting the improvement of diagnosis and treatment through a clear (objective) comparison of clinical records is the most reliable learning. I think we can establish (improve) basic dental practice by repeating this process.

My clinical practice started with the treatment of one tooth. Nothing was easy, from root canal treatment to caries treatment to periodontal treatment, and to implantation treatment, but I learned to treat them one by one. I'm a young dentist who still has a lot to learn, I am learning more from the observation of the follow-up of treatment, and those experiences has led me to think that 'basic' is more important.

Through case presentation, I would like to talk about my basic dental practice in the process of changes and my efforts to keep the basics.